

第三章 5) サンタ・リッタ耕地

(モジアナ線グアタパラ始発～7番目のジョアキン・フルミーノ駅)

【戦前にサンタ・リッタ耕地で就労した人々】

*村崎豊重通訳(第1回移民笠戸丸熊本県出身)、ピラ・ボンフィン駅より5～6キロ地点に富山県人が多く配耕され、その県人の家族の中にひで子という人と嶺 昌氏(通訳5人男の1人)は妻帯。海興業支店員に1915年頃なった。1923年サントスに聖市総領事館の出張所開館と同時に主任として、それから副領事に昇進、1927年サントスにて死亡。(「埋もれ行く拓人の足跡」271ページ)

*伊吹吉雄、1914年5月、帝国丸、福井県敦賀市金山出身、ジョアキン・フェルミーノに配耕、1956年リベイロン・ピーレス、オウロ・フィノ在住。(「ブラジル日系紳士録」)

*河野又八、1914年5月、帝国丸、熊本県宇土市網津町出身、同駅サンタ・リッタ耕地に就労後、マットン駅マットン耕地で働く、さらに営農の適地を求めてながら米作、コーヒー等の歩合農を経て、1937年パウリスタ線キンターナ駅希望植民地に永住地を求めた。(「熊本県人発展史」722ページ)

*清水幸次郎、1926年、ハワイ丸、広島県豊田忠海郡町出身、サンタ・リッタ耕地に配耕、この耕地で5年後に父長一死亡、耕地生活8ヶ年、後年トレスバラス移住地口ゼーラ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」630ページ)

*石橋常雄、1926年11月、ハワイ丸、静岡県田方郡錦田村、サンタ・リッタに就労、1931年リベイロン・プレート郊外にて雑作、果樹園を経営。(「ブラジル日系紳士録」731ページ)

*清水勇吉、1927年2月、マニラ丸、愛媛県北宇和郡下灘村出身、サンタ・リッタ耕地に配耕後、クラビーニョス駅付近に25Haの農地を購入。後年農地を整理してパラナ州トレスバラス移住地コッケイロ区に落着く。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」714ページ)

*三島唯市(ユイチ)同ヨシオ(妻)、長女アイコ、長男ショゾウ、広島県福山市瀬戸町字地良出身、1928年モンテビデオ丸。サンタ・リッタに入耕、1948年ころリベイロン・プレート市に移転、市内でほうき作りで生計をたてる。



三島唯市、ヨシオ夫妻、長女アイコ、長男ショゾウ 1930年 Praça XV de Novembro
リベイロン・プレート市内公園にて

*清水又一、1929年2月 マニラ丸、愛媛県北宇和郡下灘村出身、サンタ・リッタ耕地に就労すること2ヶ年、同駅のカンタ・ガー口耕地に転住して5ヶ年働き、クラビーニョス駅付近に25 HAの土地を購入する。後年トレスバラス移住地ロゼーラ区に入植。（「トレスバラス移住地開拓20周年史」634ページ）

*細田豊松、1932年8月 ラプラタ丸、秋田県山本郡藤琴村出身、サンタ・リッタ耕地で一農年の義務遂行、アララクワラ線で綿作2ヶ年後、パラナ州に移転、自分の農地を求めてトレスバラス移住地アモレーラ区に入植。（「トレスバラス移住地開拓20周年史」）